

## 競技・審判上の注意

- 1 本大会は、令和4年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
- 2 棄権する場合、開会式前ならば、各都県代表が大会本部へその旨を申し出てください。開会式以降ならば、各都県代表もしくは当該プレイヤーが競技役員長(レフェリー)にその旨を申し出てください。
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央には漢字で都県名を必ず明記してください。(表示については大会運営規程第24条を遵守してください)
- 4 試合は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部より試合のコール後5分経過しても当該コートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなすことがあります。
- 5 試合の進行状況により、試合開始の予定時刻やコートを変更して試合を行うことがあります。プレイヤーは、早めに試合会場待機をお願いします。
- 6 試合が連続する場合は、原則として試合終了後から約15分後に次の試合をコールします。
- 7 初回戦のみ、試合前2分間の練習を認めます。練習は、当該プレイヤーのみで行ってください。(シングルスの場合は、対戦者同士で行ってください)練習シャトルは、当該プレイヤーで準備ください。
- 8 審判構成は、主審1名、線審2名とし、サービスジャッジは原則として配置しません。敗者の方は、当該コートで次の試合の線審を行ってください。ただし各種目の準決勝と決勝は、主審および線審を主催者側で行います。
- 9 シャトルの交換については、主審が判断します。また使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 10 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイはおきませんので、コートサイドの各自のバッグ等の中に置くようにしてください。
- 11 試合中の怪我や病気については、主審の判断によりレフェリーを呼び、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中の怪我や病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の負担とします。
- 12 各コートのバッグバウンダリーライン後方、またはサイドにコーチングシートを設けます。コーチはマッチ(試合)にふさわしい服装で臨んでください。
- 13 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入ることができるのは、同時に2名までとします。
- 14 マッチ(試合)中のコートまたはコート周辺でプレイヤーの携帯電話が鳴った場合は、競技規則第16条第6項(4)の違反とみなします。
- 15 レフェリーによる失格を宣言されたプレイヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 16 その他
  - (1)会場の開館時刻は8時30分です。
  - (2)選手の受付時間は8時30分からです。  
競技種目当該日の選手入場口付近「受付」で行います。
  - (3)大会期間中の練習会場はありません。
  - (4)閉会式は行いません。表彰式は各種目の順位決定後、準備ができ次第行います。
  - (5)競技区域外でのシャトル打ちは厳禁です。
  - (6)ゴミは、すべて各自持ち帰りをお願いします。